

ご挨拶

この度、第34回の年次学術集会を愛媛大学が担当させていただくことになりました。令和6年6月7日（金）～8日（土）、松山市のダウンタウンに位置しますリジェール松山において、“さらに共に前へ”をテーマで開催させていただきます。

晩産化に伴い、偶発合併症や基礎疾患を有する妊娠が増加しています。加えて産科出血や血栓・塞栓症は、依然生命に直結する疾患として重要です。一方、新生児の出血性疾患では、妊娠前のカウンセリングや妊娠中、分娩時、さらには新生児期の管理が極めて重要となります。このような背景下、よりよい妊婦・新生児の管理を行うためには、妊娠中のみならず妊娠前からの評価に加え、妊娠中、産後の継続的な管理が重要であり、一部では新しい概念や管理法が確立しつつあります。このような視点から、本学術講演会では多職種で本領域に関し、多面的にさらに一歩進んだ議論を行うことができると期待する次第です。

本学術集会を開催するにあたり、産婦人科医や小児科医、さらにはメディカルスタッフにも役立つプログラムの構成を考えました。具体的には、妊娠中に遭遇する出血性疾患や産科DIC基準の実用化や小児科領域の乳児白血病をテーマにしたセッション等を企画しました。また、本年度より本会学術委員会企画のセッションも企画しています。

本会の益々の発展を祈念し、鋭意準備を進めて参ります。ぜひとも道後温泉や松山城等、松山観光スポットも満喫いただきたいと思います。多くの皆様にご参加いただきますよう、心よりお待ちしております。

第34回日本産婦人科・新生児血液学会
会長 杉山 隆
愛媛大学医学部産科婦人科学教室 教授